

平成二十八年七月十日、第二十四回参議院議員通常選挙の投票に行きました。今回の選挙から選挙権年齢が満十八歳以上に引き下げられたということで、四月十三日に十八歳を迎えた私にとっては、今回人生初の選挙でした。

実際の選挙に備えて、高校生も生徒会役員選挙を通して模擬選挙が行われていたので、選挙の一通りの流れや、投票の仕方はある程度把握できていました。そのこともあって、実際の選挙での投票も特に何の問題もなく行えたと思います。ただ、高校で行った模擬投票では、知っている人同士だったので全く緊張しませんでした。実際の選挙は厳粛な雰囲気の中で行われており、とても緊張しました。

私は選挙年齢が満十八歳以上に引き下げられたことについて、有権者は増えましたが、十代の投票率はそこまで上がらないだろうと思っていました。私の周囲でも、高校三年生、つまり受験生ということもあって、選挙に行くより勉強したいという声も出ていました。実際のところ、十代の投票率は四十六パーセントと低い結果となりました。この原因は、十代の有権者は高校生や大学生、社会に出たばかりの人で、政治や選挙に関心がある人が少ないからだと思います。勿論、政治に関心があり、投票する人もいます。しかしそれは、一部の人に留まっているのが現状です。折角十代の若者が、自分の考えを一票に託して政治に参加することができるようになったのに、限られた人だけが選挙に行くのでは、それ以外の若い人の意見はわからないままです。まず選挙に行って自分の考えを示すことが如何に大切かを、私は考えさせられました。

また今回の選挙は私にとって初めての事だったので、私自身あまり考えずに、なんとなく投票をしてしまいました。しかし、私にとっての今回の選挙は、政治に目を向ける契機となりました。これを機に、日頃から新聞やニュースに関心を持つようになり、皆が関心を持ち、日本の未来や身の回りの生活についてもっと考えるようになれば、社会は今よりも住みやすくなり、十代の投票率はもっと上がると思います。そして投票率を上げるために、中学校や高校で政治について学ぶことはとても有効だと思っています。

私自身も今回の選挙で色々なことを学ぶことができました。知らなかったことも分かって、本当に良かったと思います。次回の選挙は、今以上にしっかりと考えて、きちんと自分の意見を持って臨みたいと思います。